

Q 市庁舎建設についての考え方を問う

A 平成32年までには整備を完了させたい

大庭 きみ子 議員

質問項目

- 1 市庁舎建設について
- 2 環境問題について
- 3 障がい者福祉サービスについて



Q 市庁舎も42年を経過し、老朽化している。耐震診断をされる計画だが、市庁舎建設についての考えを尋ねる。

A 耐震診断を待つという時間がないので、今のうちから課題整理をするように考えている。

Q 現庁舎は合併後、大変手狭になった。ピーポットに教育委員会があつたりするので、機能を1ヶ所に集約し、効率的に業務を遂行できるようにすべきではないか。高齢者や障害者の方も来やすい、利便性の良い場所ので、防災・減災の機能を持ち、まちづくりに貢献する庁舎であるべきだと思

うが、市長の考えはどうか。

A 先に場所の話になるとまとまりにくい。やるべき事をやった上で、複数の候補地をあげて、市民の皆様

に提示をしていく。

Q 耐震調査の結果で建替えか耐震補強をするのか考

えるが、今から建設の工程がスムーズにいくように考えて、合併特例債を発行できる平成32年までには整備が完了するように努力していきたい。

Q 低炭素化社会の実現に向けて、まずは公共施設からLED照明への取り組み・推進を図っていくべきだと思いが、どうお考えか。

A 環境課が中心となり、公共施設へのLEDの設置を推進していく。



安全・安心で親しみやすい庁舎を

Q 「生活困窮者自立支援法」が、平成27年4月より施行される。

これは、いろいろな事情で家にひきこもったり、自立できていない人に対して、計画的に段階を追って各自治体で支援する法律である。国の示す目的は、生活保

護に至る前の段階の自立支援策の強化を図るものと定めている。

具体的には、相談事業に始まり、就労準備支援や学習支援事業を行って、就労し自立できるようにするまで支援する自治体の必須事業である。ひきこもりを社会問題として初めて位置づけ、国の補助金もあり、朝倉市としても早急に取り組むべき事業である。

内閣府発表では、該当者は全国的に70万人いると言われているが、朝倉市の現状把握はされているか。

A 数値的には現在把握していない。今後取納対策課、子ども未来課、水道課、商工観光課、教育委員会など関係ある機関の連絡会等を立上げ、情報交換を行い、数を把握していく必要があると考えている。

Q 窓口の設置、相談事業をどのように行うのか。

A 来年度は福祉事務所で相談業務を行い、どのようなニーズや相談があるかをふまえた上で、社会福祉協議会、施設、法人などと相談をしながら、どこで行ったら一番ベターなのかを検討していく。また相談内容から必然的に就労準備支援事業、学習支援事業も想定されると思っている。



うきは市社協のひきこもりの人たちの広場「ひきこもるね」

平田 梯子 議員

質問項目

- 1 市民と行政の協働について
- 2 ひきこもりについて
- 3 介護保険制度改正に関連して



Q ひきこもりの人たちの支援事業が義務付けられたが

A 来年度から相談事業を中心に直営で取組む

Q 住宅リフォーム補助事業の開始時期は

A 平成27年度に事業化する計画である

今福 勝義 議員

質問項目
1 市長2期目のマニフェストについて



Q 住宅リフォーム補助制度が実施されれば、地元、中小建設業者の仕事興しにつながり、労働者の雇用を守ると同時に、直接・間接的な経済効果は助成額の何十倍にも上ると考えている。県内の実施状況、補助内容等どうなっているのか。

A 県内の自治体では、平成23年度から平成24年度まで補助事業が実施され、補助額はほとんどの自治体が工事費の10%、上限10万円である。補助対象工事は、「省エネ工事」が壁、床、天井などへの断熱材の設置工事、「耐久性工事」が屋根、壁の塗装改修工事、壁、床、天井の改修工事などとなっている。

Q デマンドバスの利用者は高齢者の方が多く、目的は病院への通院が主なものだと考えているが、病院通いは病院に到着しなければ、待ち時間がわからなく、バスに乗る時間が確定できないので大変困っている。まず、病院に行く時間、それから、帰る時間を見計らって、午前中2便ずつくらい試験運行していただきたい。

A 現在利用者が希望する区間だけを運行している。定期便の場合、全てのバス停を回るということになり、乗車時間の拡大により、サービスの低下が疑義されるのでデマンドバスの定着を目指して、事前予約に対する理解を促し、予約が便利になるよう改善していきたい。



より簡単
便利な運行を

Q 雇用対策の創出が大切な取り組みと考えるが、現在の状況と今後の方針を尋ねる。

A 平成23年度より産業政策マネージャーを雇用の旗振り役として採用して、300名の雇用を創出している。また、近隣の自動車

関連の大型企業等の関係より、いち早く情報をキャッチし、マネージャー、職員ともに引き続き雇用の創出に向けて、企業誘致に取り組んでいきたいと思う。



稲富 一實 議員

質問項目
1 定住人口増への取り組みについて
2 水源のかん養と農林業の振興について
3 長寿命化対策について

Q 定住人口の増加への特化した行政施策は安全で若い人たちが住めるような地域

A 現在、医療費助成事業について、市では就学前児童の医療費は無料化、小学生の入院に係る医療費の一部を助成している。県内市町村の乳幼児子ども医療費の支給事業の状況、内容等を比較しても決して劣るものでないことを認識している。今議会でも、小学生までの入院助成を中学生までに拡充するよう、朝倉市子ども医療費の支給に関する条例

Q 学校、家庭、そして地域が連携してこそ健やかに子どもが育つ環境であると考え、市独自の教育環境づくりを尋ねる。

A 市独自の施策は、朝倉市教育施策要綱を作成し、主要課題等を制定し、施策を打ち出している。



子どもたちが健やかに成長できる環境づくりを